

ティーチング・ポートフォリオ

東京都市大学 外国語共通教育センター

稲垣亜希子

2022年3月31日 作成

1. 責務

今年度は1年次英語必修科目、および2年次以上の選択必修科目を計6時限、世田谷と横浜キャンパスにて担当したのに加え、再履修科目の集中講義も前期・後期各1時限ずつ担当した。授業以外では学生部委員会に所属し、その中の留学生部会の一員としても活動を行った。教務関係では、外国語共通教育センター内で1年次必修科目 Reading & Writing の科目代表者を務めた他、世田谷キャンパス教務チームの一人として再履修科目のクラス分け等、教務委員のサポートを行うと同時に、今年度より全1年生を対象に導入した英語 e-learning の統括責任者としての業務を遂行した。

2. 理念

学生には、社会の中で円滑なコミュニケーションを行うことで豊かな人間関係を構築できるようになってほしいと考えている。英語は単なる「道具」であり、社会の中で戦って成功するための「武器」であり、資格試験の点数によって数字でその力を示すことができる無機質なものというイメージが前提のようにみなされているが、それに敢えて反論をしたい。英語を何のために学ぶのか—世界中が協力し一致団結して解決すべき問題が山積している現代の国際社会においては、異なる文化を持つ人々とのコミュニケーションが必須となる。そういった人々と円滑なコミュニケーションをとり、お互いを理解し合い、協力し合える人間関係を構築するためにことばを学ぶのである。ことばの背後には必ずそのことばが使用されている文化がある。その文化の違いを知ることで自らの文化を客観視する視点を養い、自己を相対化することができる。異なる文化を持つ人間同士のコミュニケーションのしかたの違いを認識した上で、お互いが心地よく感じるコミュニケーションはどのようなものかを探り、自ら実践できるようになる。それが異なる文化を持つ人同士の豊かな人間関係の構築に繋がるのではないだろうか。我々が行う英語教育の目的はそこにあると信じている。

3. 方法

概要 学生に「社会の中で円滑なコミュニケーションを行うことで豊かな人間関係を構築できるようになってほしい」との理念を追求するため、次に挙げる3つの方針を持って日々の教育活動に臨んでいる。

方針1 学生との信頼関係の構築

学生に何かを伝えるためには、それ以前に教員として真摯な姿勢を示し、学生との信頼関係を構築する必要があると考えている。

- ・授業開始時間の厳守：対面授業ではもちろんのこと、オンライン授業時にも zoom を（物理的に不可能な場合を除いては）原則として10分前に立ち上げる等、授業時間を厳守するよう心掛けている。
- ・学生には敬意を持って接する：日本語で話しかける際には必ず丁寧語や敬語を用いる。また、学生の自尊心を傷つけるような言動は厳に慎み、教員の立場からも常に個々の学生の尊敬すべきところを見つけ、教員が学生からも学ぶという謙虚な姿勢を持つようにしている。
- ・誠実な態度を示す：学生からの質問にはできるだけ迅速且つ誠実に回答し、課題へのフィードバック等も丁寧に時間をかけて行うようにしている。

方針2 学習習慣・基礎学力を育てる

- ・スモールステップを意識した授業づくり：クラスワークや課題は、可能な限り細分化しスモールステッ

プを設け、目標が見えやすくした上で、達成感や成功体験を積む機会を提供する。

- ・補助教材の作成:対面授業の場合は、学生の語学レベルを見極め、タスクベースで理解が深まるような、学生のレベルに合ったワークシートを作成している。オンラインの場合はそれに代わるオンライン教材や演習問題を作成している。

方針 3 英語への抵抗感をなくし、英語は生きたことばであるというイメージのもと、自信を持って積極的にコミュニケーションできる学生を育てる

上記のような学生を育てるためには、学生の学習意欲・モチベーションを高めることが必要不可欠である。そこで以下のような方法を意識している。

＜意欲やモチベーションを高めるために＞

- ・課題内容には可能な限り選択肢を与える（レポート等のテーマを一律に指定するのではなく、自らの意思で選べる余地を残す）。
- ・グループワーク・ペアワークを多めに設定し、一方通行の知識伝達型授業を避ける。
- ・可能な限り教室内を教員自らが動き、声掛けをして学生とコミュニケーションをとり、足場かけの役割を果たしつつ自らも積極的なコミュニケーションの実践者となる。

＜英語によるコミュニケーションへの障壁を低くするために＞

- ・人前が苦手な学生にも無理なく取り組みを促すため、事前準備のない状態で大人数のグループワークを課すことを避け、ペアまたは少人数から段階を踏んでの協働学習をさせる。
- ・緊張したり萎縮して答えられなかったりする学生の情意面に配慮し、解答や意見を求める際にも、クラス全員の前で個人を指名しない（ペアまたはグループ単位で指名）。
- ・学生同士の教え合いを尊重する（副次的効果として、緊張を和らげ、自信を養う効果も見込める）。

＜自己を相対化できるよう育てるために＞

- ・授業の中で英語によるコミュニケーションと日本語（母語）によるコミュニケーションとの比較をさせたり、授業内容に異文化コミュニケーション理論・研究の知見を採り入れたりすることで、自らの文化やコミュニケーションの相対化ができるよう促す。

4. 成果

授業評価アンケート結果（自由記述欄）

「グループワークが中心の科目だったので先生や他の学科の生徒と関われる機会が多くてかなり楽しかった。このような授業をより多く開講し、生徒や先生間のコミュニケーション力をより高められたらより素晴らしいものになると思います。」

「グループワークを取り入れての話合いがかなり充実していると実感しました。今後の授業でも変わらず取り入れてほしいです。」

「親身により沿って授業を展開してくれた。」

5. 目標

短期目標（1年以内）

- ・コロナ禍以前にすべての授業で行っていた、学生とのコミュニケーションシート（またはそれに代わる

もの)を復活させたい。

- ・自らの研究と教育との更なる連携を目指したい。

長期目標

- ・研究と教育の融合をはかる。研究は教育の質を高め、教育は研究の質を高めるといった相互作用を目指す。

【添付資料】

- ・授業評価アンケート